

職員研修
有志指導者研修
要請研修

放課後子ども総合プラン指導者合同研修会①

放課後子供教室及び放課後児童クラブに携わる関係者等、合計80名が受講しました。県立美術館の講師の方々から、子どもの主体性を大切にしたりした関わり方や、身近にある素材を活用した遊びが紹介されました。



↑身近な素材「段ボール」を使ったブロックづくりと、そのブロックを使って高く積み上げる遊びを紹介する土谷氏

「続・異年齢の子どもが同時に遊べる題材」と題して、講義・演習をしていただきました。まず、土谷氏からは、県立美術館のワークショップの事例から、制作の難易度を小学校中学年くらいに設定していること、完成した作品に対して褒めたり、工夫した点を伝えたりする際の声かけのポイントなどのご指導がありました。また、道具を安全に使うことの重要性を理解し、大人が正しい道具の使い方を子どもに伝えることが大切だと話されました。作る楽しさと、作ったもので遊びを発見する楽しさを実感してほしいという土谷氏の言葉に、受講者もうなずきながら聞き入っていました。岩淵氏からは、折り紙を使った編み込みの制作について紹介がありました。簡単そうに見えて難しい、でも熱中してしまう制作に、受講者からは「高学年が楽しめそう!」「ぜひ難易度を上げて取り組ませてみたい。」といった声が聞かれました。



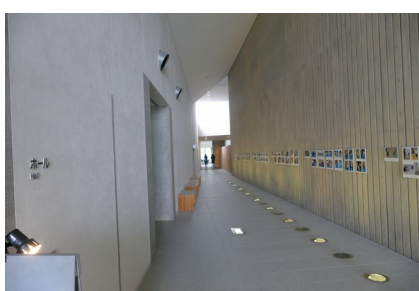
↑身近な素材「折り紙」を使った編み込みを単純なものから難易度の高い複雑な模様まで紹介する岩淵氏



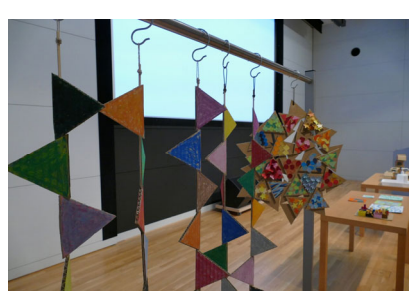
↑ 段ボールブロックや折り紙の編み込みの演習に熱心に取り組む受講者。講師の方々にも、丁寧に指導して頂きました



↑ どれだけ高く積み上げられましたか？



↑ 会場前の廊下も雰囲気がありますね！



↑ 演習内容の他にも、様々な制作例がありました

《受講者の声》

これまで思いつくことがなかった遊びに感動した。
折り紙の編み込みは集中力が必要で、夢中になって取り組める内容だと思った。
美術館の雰囲気を感じながら、子どもの気持ちになって取り組むことができた。
身近な素材で作る楽しみ、競う楽しみ両方味わうことができた。

《受講者の評価》

A(有意義)	89.7%
B(どちらかといえば有意義)	10.3%
C(どちらかといえば有意義でない)	0%
D(有意義でない)	0%

《担当者(阿部から)》

子どもの主体性を尊重しながら取り組む身近な素材を使った遊びは、所属先ですぐに活用していただくことができる内容となりました。子ども達が熱中する様子が目に浮かびます。